

重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介 5—

震災の記憶とアイヌ伝承（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

2018（平成30）年9月6日の北海道胆振東部地震により、二風谷にあるオキクルミの伝承地が一部崩落しました。ウカエロシキ（u-ka-e-roski 互い・上・で・立ち上がる：通称クマの姿岩）と呼ばれる特徴的な岩塊で、3頭の親子グマのうち母グマの頭部に相当する部分がなくなりました（写真1・2）。地域に伝えられる伝承（資料）をみると、かつては親子グマを追う猟犬の姿もあったとされており、長い年月を経る中で少しずつ姿を変え続ける自然の造形であることが分かります。遠い昔、沙流川に降臨したとされる人文神オキクルミは、穀物の栽培や丸木舟、アットウシ、漁獲、カムイへの礼拝等をアイヌに授けたと伝えられています。これらの多くは今日的なアイヌ文化継承活動の重要なものとして捉えられており、地域の暮らしで崇められるオキクルミ伝承が今に受け継がれている証とも言えます。

2019（令和元）年12月10日、二風谷ダム管理所の協力により、崩れ落ちた頭部分をウカエ

ロシキふもとの解説サイン横に移動しました（写真3）。震災によるアイヌ伝承地の変容を、後世にしっかりと語り伝えていく一環として行ったものです。

今後、イオルの森やその付近を利用する際には、ぜひ立ち寄ってご見学ください。（長田佳宏）



図 ウカエロシキの位置。二風谷ダム堤体の上流右岸側にある（朱塗り部分は重要文化的景観の範囲）。

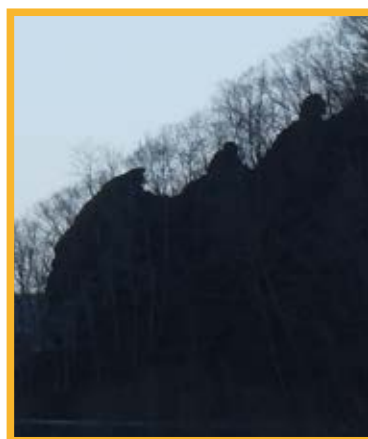


写真1 崩落前



写真2 崩落後



写真3 母グマの頭部相当部分を解説サイン横に移設。崩落部分だけでも、いかに大きな岩塊であったかが分かる。

沙流川筋の二風谷部落川向にウカイロシキ（いくつも重なっている）という岩がある、文化神オキクルミカムイに追われた親子三頭連れの熊が、逃げて逃げてどうしても文化神に獲られることをこぼみつけたので、腹をたてた文化神はその三頭を岩にしまった。一番上のが二才熊で、次が当才、一番下のが親熊であるという、昔はその後ろにそれを追う猟犬の姿もあったが、欠けおちて今はなくなった。（平取町二風谷 二谷一太郎老伝）

※この伝承ではウカエロシキではなく、ウカイロシキ（互い・重なり合って・立ちあがる・もの）と表現されている。

資料 ウカエロシキの伝承。「通称クマの姿岩」に対していくつもの呼び名が伝えられている。